

第1回一関地区広域行政組合エネルギー回収型一般廃棄物処理施設  
整備候補地選定委員会会議録

1 会議名 第1回一関地区広域行政組合エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備候補地選定委員会

2 開催日時 平成30年9月12日（水）午後1時30分から午前2時30分まで

3 開催場所 いわて県民情報交流センターアイーナ研修室811

4 出席者

(1) 委員 中澤廣委員（委員長）、千葉啓子委員（副委員長）、大河原正文委員、  
田中一幸委員、平塚明委員、山本博委員  
欠席委員 東淳樹委員

(2) 事務局 勝部修管理者、尾形秀治事務局長、村上秀昭事務局次長兼総務管理課長、  
吉田健総務管理課長補佐兼施設整備係長、中村謙介総務管理課主任主事

5 議 事

(1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の整備計画について

(2) 候補地選定の手順について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 5人

8 管理者あいさつ

既存のごみ焼却施設の老朽化により、新たな施設の整備を急がなければならない状況となっている。

新施設はエネルギー回収型の施設として、余熱等の利用により地域振興に寄与する施設を整備する。

これまで狐禅寺地区に新施設整備の提案をしてきたが、これ以上の協議が難しくなったことから、方針を変更し狐禅寺地区以外の場所で候補地を検討することとした。

候補地は、委員会において透明性を確保したうえで、各委員の専門的見地から客観的な協議をお願いし、数か所のエネルギー回収型一般廃棄物処理施設の整備候補地を選定いただく。

委員会で選定いただいた候補地から、組合として責任をもって整備箇所を決定する。

委員各位には候補地の選定へのご協力をお願いします。

9 委員長・副委員長互選

委員長、副委員長の立候補、推薦の発言がなく、次のとおり事務局案を提出。

委員長：中澤廣委員、副委員長：千葉啓子委員

事務局案に対する異議の発言がないことから、事務局案のとおり委員長・副委員長が選任された。

## 10 協議内容

### (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の整備計画について

廃棄物処理基本構想（平成 29 年 3 月策定）により事務局から説明を行った。

以下、委員からの質問等

委員 施設規模の設定において災害廃棄物を見込んで規模を計算しているが、ここでの災害廃棄物とは組合管内で発生するものを想定しているのか、外部からの搬入までを想定しているのか。

事務局 ここでの災害廃棄物は、組合管内で発生するものを想定している。

委員 管理者あいさつにもあったが、余熱利用はどの程度のものと考えているのか。

管理者 余熱は原則としてまず施設で利用し、余剰分を地域振興に活用したい。地域振興での活用については住民の要望により検討を行うが、熱量が不足する場合には、太陽光や地中熱などの再生可能エネルギーを複合的に活用することで要望に応えていきたい。

委員 焼却施設の候補地選定ということだが、選定した候補地に整備するのは焼却施設のみでリサイクル施設等は含まないと考えてよいか。また、余熱活用施設の話が出されているが、この施設は同一敷地での整備を考えていくものか。

事務局 敷地内に必要な附属施設についてはこれから精査しなければならないが、基本的にリサイクル施設やストックヤードは同一敷地に整備することを考えている。余熱活用施設については、今後それぞれ地域の特性や実情を考慮しながら様々なモデルをつくり、今後検討していくこととしている。

委員 基本構想の中に余熱利用に関して発電という記載があるが、余剰電力が発生した場合、売電という考えはあるのか。

管理者 可能性としてはある。売電に関する周辺環境も大きく変わってきているので、状況を見極めながら検討していく必要があると考えている。

委員 建設用地立地条件及び周辺整備の検討のところで地形と地質の記載があり、施設敷地としての条件が示されている。これは施設敷地のみではなく周辺の状況まで広く検討すると解釈してよいか。

事務局 そのように考えている。

委員 どのような施設をつくるかは組合での検討事項であり、委員会では組合の検討結果に基づき相応しい整備候補地を選定するというところでよいか。

事務局 お見込のとおり。

委員 リサイクル施設や最終処分場は相互に関係するが、別に進める最終処分場との位置関係や、余熱利用施設によっては住民利用の利便性などが評価に影響することも考えられる。その関係についてはどのように考えるべきか。

事務局 現在、最終処分場の選定が先行しているが、途中からは整合性を図る意味から同じような進捗具合になるようにしたい。その中で様々な条件などの情報を共有していくようにしたいが、それらについては今後の会議の中で詳しく協議していきたい。

委員 既存施設を統廃合して新施設を整備するとのことだが、既存施設の建物や設備などの再利用等の考えはなく、全て新しく建設するということか。

事務局 既存施設は、一関清掃センターが竣工から 38 年目と非常に老朽化し、大東清掃センターが竣工から 19 年目と新しいものではないため、全てを新しく整備することで考えている。

委員長 今後、計画について委員が疑問に感じた点については事務局に随時質問するというようにしてよいか。

事務局 承知した。

## (2) 候補地選定手順について

会議資料協議 2 により事務局から説明を行った。

以下、委員からの質問等

委員 候補地について、住民からの自薦や他薦を受けるような機会を設けるのか。

事務局 最終処分場の関係では、選定委員会の状況が新聞等で報道されたことから、土地提供の申し出等の情報提供を何件か受けている。そのため、時期等については今後検討する必要があるが、公募という形で住民等に周知することを考えている。

管理者 公務で各地域等に行った際、住民等からの土地提供等の情報を受けている。

公募する場合には、これらの情報を併せて委員会に情報を提供したい。

委員 現地の確認等はどのように考えているか

事務局 現地調査については、第 2 次選定で 10～20 か所に絞込みを行った後に、現地を確認する必要があると判断された場所について行うこととしたい。

委員 最終処分場の候補地選定との関係について、同じような進捗で行うとのことだが、候補地の選定は最終処分場と焼却施設別々の場所でもよいということか。収集運搬等の効率化を考えると、同じ地域の方が望ましいと思うが。

事務局 できるだけ近い距離であることが望ましいと考えるが、それぞれの施設の候補地は必ずしも同じ地域とすることは考えていない。

委員 それぞれの委員会の進捗は同期させた方が効率的だと思われるが、別々のものとして進めていくのか

事務局 それぞれの委員会は別に進めていくが、第2次選定結果を決定する段階で進捗が同じになる。それ以降は同一の進捗とし、情報を共有しながら進めていくことを考えているが、最終処分場の選定委員会で説明と了承を求めていきたい。

委員 組合としては、それぞれの施設を同一地区に整備したいというのではなく、それぞれの施設を整備する最適地を各委員会で選定し、最終的に組合で相互影響を考えて決めるということによいか。

事務局 それぞれの施設を同一地区にするという考えはなく、それぞれの委員会で第2次選定までに10～20か所を選定いただき、その中で組み合わせを考えるかどうかは今後の検討が必要だが、双方の結果を見ながら最終的な選定をお願いするようなことを考えている。

委員 最終処分場への運搬距離等による最終候補地の評価等、委員会の中でどう考えていけばよいか。組合で検討したものが委員会に提示され、協議をするということか。

事務局 現在はそのように考えている。

管理者 今後はごみの減量化と並んで可能な限り再資源化を進めようと考えており、焼却灰のセメント原料化なども考えているため最終処分場への運搬量も少なくなる。そのため焼却施設と最終処分場との位置関係も今までとは違う状況になるかと思う。

委員長 このフローは今後委員からの意見をもらって随時見直すことにしたい。

10 担当課 総務管理課